

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 牧 茂義

論 文 題 目

日本における統合失調症患者に対する地域定着を目指した
看護支援の構造と病棟風土および省察との関連

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 飯高 哲也

名古屋大学准教授 佐藤 一樹

名古屋大学教授 玉腰 浩司

論文審査の結果の要旨

統合失調症は寛解した後にも症状が再燃し、再入院しやすいことが特徴の一つである。再入院することは患者に苦難を与え、予後に影響し、家族機能の破綻、さらには医療費の高騰につながる事が知られている。統合失調症患者が再入院することなく地域定着することを旨とするに当たり、病院における看護支援は重要な要素の一つとなる。エビデンスに基づく標準化された病院における看護支援を検討するために、その看護支援の構造と関連要因を検討する必要がある。しかし、『統合失調症患者の地域定着を目指した病院における看護支援』の構造と関連要因を検討した報告はない。本研究では関連要因として病棟風土と省察をあげ、『統合失調症患者の地域定着を目指した病院における看護支援』との関連を検討した。

本研究では、日本全国の精神科病院で勤務する看護師 724 名に対して自記式質問紙調査を実施した。調査では、独自に作成した『統合失調症患者の地域定着を目指した看護支援の調査票』、Rumination-Reflection Questionnaire における下位尺度 Reflection、エッセン病棟風土評価スキーマを使用した。探索的因子分析および重回帰分析で、『統合失調症患者の地域定着を目指した病院における看護支援』の構造と関連要因を明らかにした。




本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 『統合失調症患者の地域定着を目指した病院における看護支援』は 5 因子から構成される。その因子には、再入院の理由を特定する要素に加えて、地域生活で活用可能なセルフマネジメントに関する教育介入の要素が含まれる。
2. 『統合失調症患者の地域定着を目指した病院における看護支援』には、看護師の省察といった看護師の個人要因に加えて、患者に対する治療的な関心の高い病棟風土といった環境要因も関連する。
3. 看護師の省察をすすめる教育訓練手法の開発、および患者のニーズに関心の高い病棟風土の醸成が、『統合失調症患者の地域定着を目指した病院における看護支援』のより積極的な提供につながる事が示唆される。

本研究は、統合失調症患者の地域定着を目指した病院における看護支援に関わる重要な知見を提供した。なお、本研究の主たる内容は、PLOS ONE (JCR 2020 Journal Impact Factor: 3.240) に掲載された。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	牧 茂義
試験担当者	主査	名古屋大学教授	名古屋大学准教授	名古屋大学教授
	飯高 哲也		佐藤 一樹	 玉腰 浩司 
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の質の根拠となる客観的な指標 2. 『病棟風土』の定義 3. 省察をすすめる教育介入の方法 4. 『構造』の定義 5. 独自に作成した質問項目が測定しようとしている概念 6. 『地域定着を目指した看護支援』の対象となる患者の特徴 7. 重回帰分析における標準偏回帰係数の解釈 8. 重回帰分析でステップワイズ法を用いた根拠 <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				